児童・生徒の現状・課題

・学習面において、自信をもっていない児童が多い。

・国語、算数ともに全国や東京都平均より大きく下回っている。

・学校以外で勉強する時間が極端に低い。

学び続ける力を育むための重点目標

〇学習の中で選択の場面を積極的に設定することで、児童が自分の考えをもち、学習できるようにする。

具体的な手だて①

導入で単元の流れを確認し、どのような学習を進めていくかを知り、児童が計画的に取り組めるように見通しをもたせる工夫を行う。

具体的な手だて②

授業や行事の終わりに学習感想を書くなど、振り返りをする時間を意図的に設定する。キャリア教育の一環と捉え、繰り返し取り組むことでPDCAサイクルの実現に努める。

具体的な手だて③

Chromebook やプロジェクターを活用し、教材を共有したり協働学習に取り組ませたりする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(8月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	69%	75%	73.7%
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など学び方を自分で選び進めることができる。	69%	75%	89.5%

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(8月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	71%	80%	89.4%
②児童生徒が自分で計画を立てて学習をすすめる力を育むため授業において手立てを講じたり、指導したりしている。	71%	80%	89.5%

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・自己申告に伴う授業観察の際は、指導案を廊下に準備し、積極的に気軽に授業を見合う機会をつくる。

・管理職の授業参観では、選択させる場面を必ず取り入れた授業を全教員が行う。（2 学期以降）

総括（7月）

全国学力状況調査の結果を見ると、3教科とも全国平均を大きく下回っている。各教科での無回答の割合も高い結果となった。基礎的学力の定着はもちろんのこと、知識をもとに応用・活用する力を身に付ける必要がある。そのために、まずは選択の場面を積極的に設定し、児童が学習の中で必ず自分の考えをもてるようにする。学年の実態に合わせ、選択した理由を短い言葉で友達に伝えたり、一文にまとめたりする活動を増やし、思考し、表現する力も高めていきたい。

総括（1月）

授業改革推進研修を軸に、各授業で選択場面を意図的に取り入れ、自分の考えをもつことができるようにした。その結果、目標として掲げていた4つの項目全てにおいて、昨年度を上回る数値となった。しかし自ら計画を立てて学んでいるという意識は教員と児童で大きな差がある。自ら学ぶ児童を育成していくため、学習の見通しをもたせ、選択場面が思考を伴う活動となるよう、問いの質を更に高めていくことが必要である。また、授業の振り返りを次の学習につなげられるような学習過程を意図的に組み込んでいくことが重要である。